

5 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち一)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

□一 あとの問一～問七に答えなさい。

問一 次のア～オの読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

ア 貫名菘翁 イ 綴葉装 ウ 若溪詩卷 エ 三極 オ 澄泥硯

問二 次のア～オは、書道に関連のある語です。それぞれの説明を簡潔に書きなさい。

ア 朱文印 イ 狼毫 ウ 宿墨 エ 避諱 オ 側款

問三 次のア～オは、書道に関連のある語の説明です。それぞれ何について述べたものか書きなさい。

ア 後漢・永元十二年に許慎が著した中国最古の字書。
イ 鑑賞用として古筆切を折帖に貼り付け仕立てたもの。
ウ 臨書学習の一方方法。主として古典の筆意や情勢を写意的に学ぶ方法。
エ 人差し指一本を掛けるだけで筆を持つ方法。
オ 点画を段階に分けて書くこと。起筆・送筆・収筆のこと。

問四 次の図版①～⑤に書かれている文字を、それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

問五 「高野切」について、次のア・イに答えなさい。

ア 次の文章は、「高野切」について述べたものです。文章中の a c に当てはまる語をそれぞれ書きなさい。

「高野切」は、 a の現存最古の写本である。後世に断簡が高野山に伝わったことから「高野切」の名があるが、もとは序と全二十巻を書写した b であったと考えられる。十一世紀半ば頃に三人の名人が分担揮毫した c で、それぞれの書風を第一種、第二種、第三種とよびならわしている。

イ 「高野切」にはどのような料紙が用いられていますか。簡潔に書きなさい。

5 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

問六 次の図版①は、「高野切第一種」の一部、図版②は、「高野切第三種」の一部です。あとのア～エに答えなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ア 図版①の中から詞書の部分を抜き出し、書かれている字の読みを平仮名で書きなさい。
- イ 図版①・図版②の書風の特徴をそれぞれ簡潔に書きなさい。
- ウ 図版②の和歌の内容を書きなさい。
- エ 次の図版③・図版④は、図版①・図版②の一部をそれぞれ拡大したものです。それぞれの仮名について、字源を楷書で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

問七 次のア・イに答えなさい。

ア 次の文章は、元の陳繹曾の「翰林要訣」の一節です。この文章の内容を簡潔に書きなさい。
字生於墨、墨生於水。水者字之血也。

イ 次の文は、明の董其昌の「画禅室随筆」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。
古人神氣淋漓翰墨間、妙处在隨意所如、自成体勢。

5 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

二 次の図版①は、「李柏尺牘稿」の一部、図版②は、「鄭義下碑」の一部です。「書道Ⅰ」において、図版①及び図版②に基づいた臨書活動を行い、その後、創作活動を行うこととします。創作活動では、それぞれの図版を踏まえて、「大海」の語を表現させることとします。図版の特徴を生かして、どのような表現をさせることが考えられますか。それぞれの図版の特徴を明らかにした上で、図版を踏まえた表現の意図及び表現の工夫を書きなさい。なお、表現の工夫については、用具・用材、字形、線質、墨色、全体の構成の五つの観点に触れて書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

5 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち四)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

三 「書道 I」において、次の「祭姪稿」の図版及び釈文を用いて、平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道 I 内容 A 表現 (2)漢字の書 ア「ア」古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成」、ウ「イ」古典の線質、字形や構成を生かした表現」、B 鑑賞 (1)鑑賞 イ「イ」線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり」を取り扱う授業を四時間で行うこととします。図版の書跡及び釈文をもとに、鑑賞、臨書の学習指導を行う場合、どのような単元を設定しますか。単元の評価規準と学習活動をそれぞれ具体的に書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

Kyosai-guild

5

高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(五枚のうち五)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

四 平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道 I 内容 A 表現 (3) 仮名の書 には、「仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。」と示されています。ウ (イ) 連綿と単体、線質や字形を生かした表現」の技能を身に付けさせるためには、どのようなことを指導することが大切ですか。「連綿の学習」と「単体の学習」について、それぞれ簡潔に書きなさい。

kyosai-guild

5

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

□						問題番号
問七		問六				解答欄
イ	ア	エ ③	ウ	イ ②	ア ①	
		④				

5

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち三)

受験番号	
氏名	

問題番号			解答欄
表現の工夫 (用具・用材, 字形, 線質, 墨色, 全体の構成)	表現の意図	図版の特徴	
			図版①
			図版②

5

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち四)

受験番号
氏名

問題番号			解答欄	
☐				
	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評価規準				
	学習活動			
第1時				
第2時				
第3時				
第4時				

5

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち五)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

四		問題番号
単体の学習	連綿の学習	解答欄

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点	
一	問一	ア ぬきなすうおう	各 2 × 5	
		イ てっちょうそう		
		ウ ちょうけいしかん		
		エ みつまた		
		オ ちょうでいけん		
	問二	ア 文字の周囲を彫り、押したときに文字が赤くなる印。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 5
		イ イタチの毛の筆。		
		ウ 磨った後、長時間又は一夜を経た墨汁。		
		エ 皇帝や祖先の名又は諱と同一の文字を用いるとき、これを不敬としてその使用を避ける中国における習慣。		
		オ 印の左側面に刻る落款。刻年月、場所、署名などを刻す。		
	問三	ア 説文解字	三折 もよい。	各 3 × 5
		イ 手鑑		
		ウ 意臨		
		エ 単鉤法		
		オ 三過折		
	問四	① 超	各 2 × 5	100
		② 寿		
		③ 道		
		④ 思		
		⑤ 印		
問五	ア	a 古今和歌集	各 3 × 3	
		b 卷子本		
		c 寄合書		
	イ 一面に雲母砂子を撒いた厚手の麻紙系のもの。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。 料紙の種類は、雁皮紙 もよい。	5	
問六	ア はるのたちけるひよめる		3	
	イ	① 線は秀潤にして緩急、抑揚の変化に富み、温雅にして筆力がある。運筆は沈着、ゆったりと入念にして重厚、おおらかにして高貴にみちている。情味豊かで、ゆったりと落ち着き、品位も高く王者の風格がある。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 2
		② 線は繊細流麗にしてよく暢達している。運筆は軽快にして冴えている。平明にしてのびやかで婉麗優雅であり、表現はすっきりと清新で理知的である。		
	ウ 白雪が降るのと一緒になってわが身は古くなってしまったが、白雪と違って、我が心は消えないものであったよ。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	3	
	エ	③ 己 保 礼 留		4
		④ 和 可 美		3

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点
二	問七	ア	文字は墨から生まれ、墨は水から生まれる。だから水は文字の血液である。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各5×2
		イ	古人の書は、心ばえが筆墨の間にあふれ出ている、その妙味は心の趣くままに、自然に形ができあがるところにある。		
二	問八	図版の特徴	「李柏尺牘稿」の書写年代は、東晋といわれ、王羲之と同時代の肉筆資料として注目を集めているものである。起・収筆がのびやかで、文字の大小・線の太細等変化に富み、まさに紙への筆写による自在さがうかがえる。初期行書の姿が看取できる。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5
		表現の意図	穏やかな中にも流れの変化がある海をイメージし、丸みを帯びたのびやかな線を基調としながら、文字の大小・線の太細等の変化をもたせた表現にする。		
		図版①	<ul style="list-style-type: none"> 筆は、膨らみがありのびやかな線を表現できる、柔毫短鋒を選択する。 墨は、「李柏尺牘稿」が松煙墨で書かれていることにより、松煙墨又はわずかに青みを帯びた黒色の墨を選択する。 紙は、紙の厚みによる線の深さと多少のじみによる温かさを表現するために二層紙を選択する。 右廻りの筆勢が大きく働くように運筆し、若干のじみとかすれによる変化をもたせる。 全体の構成は、縦書きで「大」を太めにやや小さくし、三画目を長くのびやかにする。「海」を大きく、右廻りの筆勢が働くようにし、文字の中の空間とのびやかな線が余白に働きかけるように表現する。 	表現の意図と対応しているものだけを正答とする。 問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	10
		図版の特徴	「鄭義下碑」は、ほぼ同時代の「龍門造像記」に代表される方筆系の書と比較すると、これは円筆系で、石質にもよるものの、ゆったりと大きく構え、粘りのある線質で悠々と書かれている。字形は隸意を帯び、やや扁平で、円勢をもって書かれている。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5
		表現の意図	ゆったりとして雄大な海をイメージし、円勢と懐の広い字形を基調としながらも碑としての謹厳さも感じられるように表現する。		
		図版②	<ul style="list-style-type: none"> 筆は、弾力を生かし深さを表現できる、柔毫長鋒を選択する。 墨は、艶と厚みをもたせるために濃くした油煙墨を選択する。 紙は、墨が入りやすく深い線を表現するために、厚口の宣紙を選択する。 筆の弾力を利用して、のびやかで粘り強い線質で、やや扁平で胴を張り、懐の広い安定した字形になるようにする。ただし、不自然なうねりにならないようにする。 縦書きで文字の中心を揃えるが、空間の広がりをもたせるために「大」を若干大きめに配置する。 	表現の意図と対応しているものだけを正答とする。 問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	10
40					

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点
<p>三</p>	<p>評価規準</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祭姪稿」の内容に応じた変化に富んだ字形、用筆・運筆、線質等の要素と風趣との関わりを理解している。 ・「祭姪稿」の重厚で粘りのある線質、強い筆圧での運筆、軽快さを生かした表現の技能を身に付け、表している。 	<p>問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	<p>40</p>
		<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祭姪稿」の自由奔放な行草体の特徴が表れた部分を選定し、「祭姪稿」の書風が生きるように用筆・運筆、字形、全体の構成を考えて表現している。 		
		<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祭姪稿」の特徴に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 		
	<p>学習活動</p>	<p>第1時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祭姪稿」の書かれた背景とその書の特徴との関連を理解する。 ・「祭姪稿」の文意を理解した上で鑑賞し、文意の内容に応じた字形、用筆・運筆、線質の表現となっていることを理解する。 		
		<p>第2時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「祭姪稿」の特徴的な部分を臨書し、重厚で粘りのある線質、強い筆圧での運筆部分と軽快な表現などの変化を感じ取る。 ・「祭姪稿」の内容と表現を踏まえて、各自が感銘を受けた部分の語句を4～6文字程度選定し、試書する。 		
<p>第3時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が試書したものと「祭姪稿」の特徴となる字形、用筆・運筆、線質の表現が対応しているかどうか比較・検討し、表現しようとしている作品の表現意図を深める。 ・各自が選定した語句の内容や風趣を理解した表現を工夫して清書する。 				
<p>第4時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清書した作品の表現意図について発表を行い、互いに鑑賞する。 ・「祭姪稿」を再度鑑賞して、「祭姪稿」の内容と表現のつながりを確認して、自身の表現した作品を自己評価する。 				
<p>四</p>	<p>連綿の学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運筆の律動性や筆脈の把握を通して、文字と文字を無理なく自然に続ける表現として捉え、その技能を身に付けること。 ・連綿の視点で「仮名の書」を捉えることにより「仮名の書」の特質及びそれを構成する諸要素の特性への理解を深め、「仮名の書」の技能の捉え方も深めること。 	<p>内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。</p>	<p>20</p>
	<p>単体の学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名と変体仮名について基本となる字形と基本的な用筆・運筆を学習することから始め、初めて学習する変体仮名については、身近な用例を示すなどして関心を高め、表現の工夫へとつなげること。 ・「B 鑑賞」との関連を図り、片仮名も含め、各文字の字源や成立過程を踏まえることで、筆順や字形の理解にもつなげること。 		